

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

No.99
2014年1月17日発行
1月号

広報 | 京丹波

手づくりの門松が
新年を祝う

京丹波町



京丹波町 農業・林業・生活

六部

未来にはばたく京丹波町へ



今月の表紙

新年を控えた12月20日、役場玄関前に須知高校食品科学科生徒がつくった門松が飾られました。松、竹、梅、南天などが飾られた門松は、早速来庁者に、迎春の雰囲気を与えていました。



京丹波町長 寺尾 豊爾

町民の皆さま、明けましておめでとうございます。平成二十六年の輝かしい新春をお迎えになりましたこと、心からお喜び申し上げます。

私、昨年十一月に行われた町長選挙により、町民の皆さまから改めて今後四年間の京丹波

町民の皆さまのお力添えを賜りながら、その時々合った形で支援を続けていきたいと考えております。

次に、本町の財政運営面においては、依然として厳しい状況下にあります。これまで積極的に取り組んでまいりました財政健全化対策が実を結び、着実に改善傾向にあります。今後は、合併特例期間の終了も近づいていることから、安定した行財政基盤の確立を目指し、引き



京丹波町議会議長 野口 久之

新 年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、平成二十六年の輝かしい希望に満ちた新春をご家族お揃いでお迎えになりましたこと拝察申し上げます。また、日頃は、議会活動に深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年十一月十日に行われました町議会議員選挙におきまして新たに十六名の議員が選出され、不肖私が京丹波町議会議長の重責を引

NO.99 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 2013年を振り返る
京丹波のおもなできごと
- 6 年男・年女の皆さんに聞きました
2014年の抱負
- 8 【シリーズ】健康生活のススメ
『みんなで元気な毎日』
- 10 行政information
「(仮称)ハイウェイテラス・京たんば」整備事業
「道の駅」の名称を募集します
人の動き
「町のシンボル」の情報をお寄せください
- 12 Dr's Message いきいき健康術
- 13 FLASH KYOTAMBA TOWN NEWS 2014

町の舵取りをおまかせいただくこととなりまして。これもひとえに、日ごろから多くの町民の皆さまに、町政に対して温かいご支援をいただいている賜物であると感謝しております。二期目の四年間についても、初心を忘れることなく、合併時に子どもからお年寄りまで全ての町民の皆さまが等しく希望された「合併してよかったと思える町」の実現に向け、「安心」「活力」「愛」のあるまちづくりを一歩ずつ着実に進めてまいりたいと決意を新たにしています。

さて、昨年を振り返りますと、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)による富士山の世界文化遺産登録、二〇一〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定など、日本が世界中から注目された一年でした。一方、国内では、九月に台風十八号が襲来し、近畿地方を中心に各地に甚大な被害をもたらしました。生活関連施設や農業施設などは、復旧に向け着実に作業が進ん

続き健全化対策を進めてまいります。

平成二十六年は、町民一人ひとりが主役になるための大切な一年であると考えています。京都縦貫自動車道丹波パークینگエリア(仮称)に隣接する地域振興拠点施設(仮称)ハイウェイテラス・京たんばの整備、北海道下川町との交流による循環型森林経営をもとにした森林資源の有効活用、将来のまちづくりの核となる人材を育てる子育て支援など、「安心」

引き続き担うことになりました。町民の皆様のご期待とご信任を頂き、住民全体の福祉向上と地域社会の活力ある発展を目指し、なお一層、議員一丸となって取り組んでまいります。

さて、この数十年間で、国内外の経済、社会状況は激変し、国内では、人口の減少と超高齢化が進行するとともに、地域経済の衰退が止まらず、国外では、経済のグローバル化が顕著になりました。その波は日本の各地に及ぶようになり、その上に東日本大震災と原発事故、リーマンショックを頂点とする国際金融危機という未曾有の事態が相次ぎました。

しかし、そのような中、昨年は、悲願でもありました畑川ダムが完成し、永年苦勞をしてきた水問題が、一気に解消する運びとなる、記念すべき歴史的な年でありました。

また、学校給食センターが設置され小・中学校の完全給食が開始された年でもありました。いま、ここに新たな年を迎え、閉そく感や停滞感を打ち破り、希望に満ち、そして、安らぎと心にゆとりを持った真に豊かな時代にするためには、経済的な豊かさばかりを追求するのでは

でいるところです。

本町におきましては、四月に瑞穂学校給食センターが開所し、町内全ての小・中学校への完全給食を実施することができました。給食と食育を通して心も体も成長した子どもたちが将来の京丹波町を担ってくれることを願うばかりです。

さらに、将来の発展に向けた基盤づくりとしては、三月に町のみずがめとなる畑川ダムが竣工し、本町にとって悲願でありました水問題に区切りをつけることができました。来年度末には京都縦貫自動車道の全線開通が予定されており、京丹波町は輝かしい未来へ着実な歩みを進めています。

また、今なお先の見えない避難生活を送られている友好町、福島県双葉町への支援については、復興に向け今後とも息の長い支援が求められるところです。本町といたしましても、

と「活力」に支えられた「愛」のあふれる京丹波町に向け、まい進してまいりたいと考えていますので、さらなるご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

後になりましたが、今年一年が町民の皆さまにとりまして、日々の生活に笑顔があふれる一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

なく、一人ひとりの勇気ある第一歩が必要となってきています。

地方財政は、まだまだ厳しい状況にあります。が、地域のことは地域で対応すべく、その責任を負うという地方分権の時代にあつて、地方議会の果たす役割はきわめて大きく、かつ重要となつております。

急速に進む少子・高齢化や深刻な環境問題をはじめとする多くの困難な問題にも直面しておりますが、私たち議会も、将来目標像であります「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 京丹波」の実現のため、行政と連携を図りながら、町民の意思を反映させ、更なる創意工夫を重ね、皆様方のご期待に応えられるよう、決意を新たにしているところでございます。

町民の皆様には、一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、この一年が、皆様方にとって幸多い年でありますよう心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

京丹波のおもなできごと

2013年を振り返る

12月

● 琴滝で「冬ほたる」が開催される(十三日～二十四日)

11月

● 京都丹波ロードレースを開催(三日)
 ● 京丹波町長選挙が告示。寺尾町長が再選される(五日)
 ● 京丹波町議会議員一般選挙が執行。十六人の新議員が決まる(十日)
 ● 町有施設を活用し「生活介護支援事業所スマイル」が開所(十三日)
 ● 町文化祭が開催される(十六日～十八日)

10月

● 社会教育委員による双葉町支援活動「京丹波から秋の恵みを届け隊」実施(二十九日～三十一日)
 ● 丹波自然運動公園および府立須知高等学校を会場に京丹波●食の祭典(二〇二二が開催(二十七日))

9月

● 台風十八号が襲来。町内に大きな爪あとを残す(十五日～十六日)
 ● 出会いサポート事業「丹波自然運動公園deときめきツアー」を開催(二十三日)

8月

● 町内三カ所を会場に「みんなでラジオ体操」を開催。約四百人が参加(四日)
 ● 将来に向けた子育て支援施策の検討を目的に「京丹波町子ども・子育て審議会」が発足(二十七日)
 ● 京丹波夏まつり(五日)、みずほ夕涼み大会(十一日)、わちふるさと祭り(二十五日)が開催される

7月

● 町内五法人と災害時における福祉避難所の設置運営などに関する協定を締結(三日)
 ● インドネシア共和国アチエ州のアルムスリム大学から訪問団が来町(三日～四日)

6月

● 出会いサポート事業「ウッディパルわちdeときめきツアー」を開催(九日)
 ● 町長と語るつどいを町内十二会場で開催(六月二十五日～九月九日)
 ● 町内八つめの住民自治組織「竹野活性化委員会」が設立(二十九日)

5月

● 畑川ダムから町水道への通水が始まる(三十一日)

4月

● 災害時の医療救護活動に関して、船井医師会と協定を締結(十七日)
 ● 十年間の森づくりの指針となる「京丹波町森づくり計画」を策定(二十六日)
 ● 瑞穂学校給食センターが開所。町内全ての小・中学校で給食開始

3月

● 建設開始から約二十年を要した畑川ダムが竣工(十六日)
 ● 道の駅「瑞穂の里さくらびき」が改装オープン(十六日)
 ● 大規模災害時の緊急対応に関して、町建設業協会と協定を締結(二十九日)

2月

● 町消防団主催の消防団活動を通して人と人とのつながりを描いた映画「ふるさとがえり」映画上映会が開催(十七日)

1月

● 町消防出初式が開催(十三日)
 ● 新成人百八十九人を祝う成人式開催(十三日)



冬ほたる



レトロロックフェスティバルin京丹波



みんなでラジオ体操



全小・中学校で給食開始



下川町と友好交流協定締結

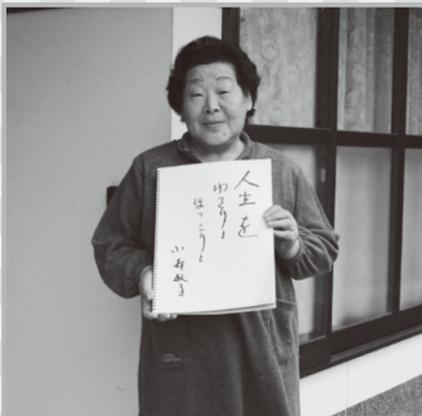


成人式

年男・年女の皆さんに
聞きました!!

2014年の抱負

2014年(平成26年)の干支は「午(うま)」。今年「年男・年女」として人生の節目を迎えられる町民の皆さんに1年の抱負と2014年にかかる思いなどをお聞きました。



小森敏子さん(実勢)
昭和十七年八月二日生

「人生をゆつくりと
ほつり」と

この言葉にした理由は

—今まで子育てなど、自分が休む間なく生活を送ってきたので、最近では、時間に追われることなく楽しめる趣味の活動やボランティアなどに取り組んでいます。なかでも、手芸などの手づくりの作品を作る活動では、防災頭巾を作って小学校に贈ったりしているのです、そういう活動をこれからもがんばりたいです。



野村諭司さん(保井谷)
昭和二十九年三月二十五日生

「おいしい野菜
作りをめざして」

この言葉にした理由は

—京かんざし、伏見甘長とうがらし、みず菜などの京野菜づくりを始め、四年になります。失敗も重ねながら、手探りでがんばっています。これからも安心・安全でおいしく食べてもらえる野菜づくりに全力投球していきます。



岡本みずきさん(蒲生)
平成二年七月五日生

「笑顔を
たやさない」

この言葉にした理由は

—今年度、役場に就職して、住民課の窓口でがんばっています。「笑顔で話しかけられないやな気持ちになる人はいない」と聞き、これからは笑顔を絶やさず気持ちよく接していけたらと思っています。

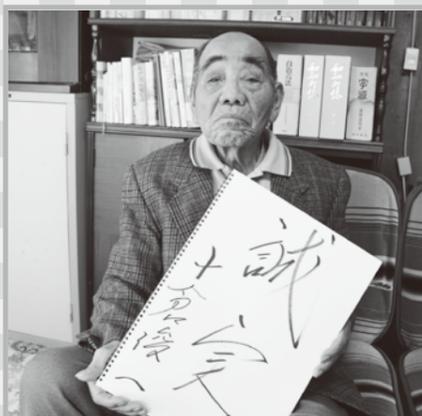


由里若菜さん(丹尻)
平成十四年八月二十二日生

「明るい
あいさつ」

この言葉にした理由は

—あいさつができていないときがあるからです。今年度は六年生になるので、自分から明るくあいさつできるようにしたいです。



十倉俊一さん(安栖里)
大正七年十二月十一日生

「誠実」

この言葉にした理由は

—若い頃は、戦争も体験し、いろいろなことを経験してきました。この言葉は、これまでも大事にしてきた言葉です。これからも一日一日を大事にして、悔いが残らない生き方をしていきたいと思っています。また、これからも規則正しい生活で健康を大事にしていきたいです。



山内久則さん(質美)
昭和五年二月十六日生

「感謝の気持ちを
忘れずありがとう」

この言葉にした理由は

—子どもどものときは、体が弱かったけど、みんなのおかげで毎日過ごしています。最近では、「感謝」することが大事にされていないように感じます。これからも「ありがとう」という言葉を大事にして、畑仕事や趣味にがんばりたいです。

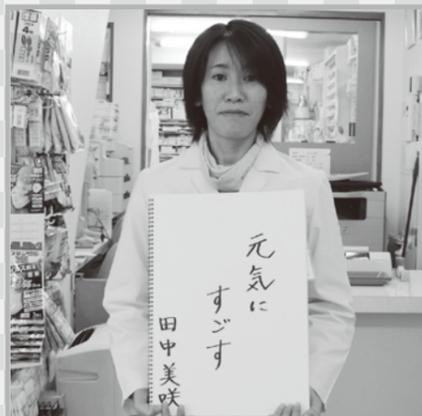


平井法夫さん(須知)
昭和四十二年九月三十日生

「人生楽しく」

この言葉にした理由は

—仕事と遊び、現在務める交通指導員や消防団員としても一杯がんばりたいと思っています。また、ライブに行くことも好きで、私が尊敬する寺内タケシさんが、全国の高校で行うコンサートを、近隣でも実現したいです。



田中美咲さん(本庄)
昭和五十三年十二月十二日生

「元気に
すげす」

この言葉にした理由は

—九歳と六歳の子ともがいまですが、子どものためにも、元気に毎日を過ごしたいと思っています。今年度は、子どもたちと料理や小物を一緒に作ったりもしたいと思っています。

【シリーズ】

健康生活のススメ

最終回「みんなで元気な毎日を」



平成24年度に京丹波町健康プラン21の中間評価として実施しました「生活アンケート」。

シリーズ最終回となる今回は、アンケート結果をもとに、毎日の生活での「健康感」「生活の満足度」の状況と、充実した日常生活の基本となる健康づくりについてお伝えします。

※京丹波町健康プラン21は平成22年3月に策定した町の健康増進計画。乳幼児期から高齢期まで、それぞれの健康課題の解決および健康増進に向けた目標を定めています。

「自分はどのくらい健康だと思いますか？」

自分がどのくらい健康かと考えたり、どのくらい生活に満足しているか考える機会は少ないと思います。「健診で異常を指摘されているから」「病院を受診し、お薬を飲んでいるから」「自分は健康ではないと思うのでしょうか。それとも、「少し病気はあるけれど毎日が充実し、楽しく暮らしているから」「自分は健康で、生活にも満足していると感じているのでしょうか。」

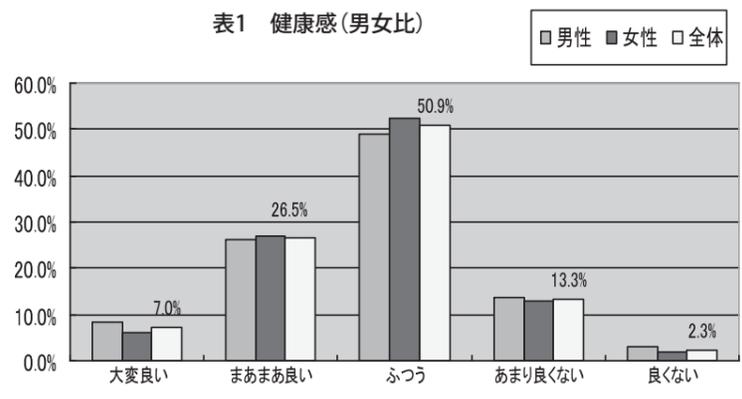
今回は、京丹波町健康プラン21の生活アンケートでお聞きした「健康感」および「生活の満足感」について、結果を報告します。

健康感については、「大変良い」から「ふつう」と回答した人が全体の八四・四％を占め、中でも「ふつう」と回答された人は、五〇・九％と最も高い結果でした。（表1）

一方、二五・六％の方が「あまり良くない」「良くない」と回答され、健康に何らかの不安を感じている結果でした。

男女の差は特に見られませんでした。が、年代別では、三十歳代男女と四十歳代の女性で「大変よい」「まあまあ良い」と回答した割合が四〇％を越え、八十歳代以上の男女で「良くない」と答えた割合が高い結果でした。

表1 健康感(男女比)



毎日の生活は楽しい？

生活の満足度については「大変楽しい」から「ふつう」と回答した割合は全体の九二・四％で、うち「ふつう」と回答された方が五四・五％と最も多い結果でした。（表2）

年代別では、二十歳代男女の多くが「大変楽しい」「まあまあ楽しい」と回答

健康づくりのために免疫力を高めよう！

免疫とは文字どおり「疫を免れる」体の防御システムです。異常物質が体に侵入するのを防いだり、侵入した物質を排除したりする力のことです。

この免疫力を高めるためには①「食事」で体の元となる必要な栄養素を取り入れ、②「適度な運動」により外敵と戦う体力と、がん細胞などと戦う免疫系の細胞を増やすことが大切です。また、③「休養」をとって気分転換し、ストレスを排除することが効果的といわれています。

「笑う門には福来る」という言葉とおり、「笑う」ことで免疫細胞が活性化することが分かっています。

健診と健診結果説明会の活用を！

健診は自分の体の状態を「数値」で見

やはり健康維持の基本は「食事」「運動」「休養」の三本柱ですが、現代では「ゆとり」「癒し」「楽しみ」「笑い」など、心の豊かさが健康への鍵を握っているのかもしれない。

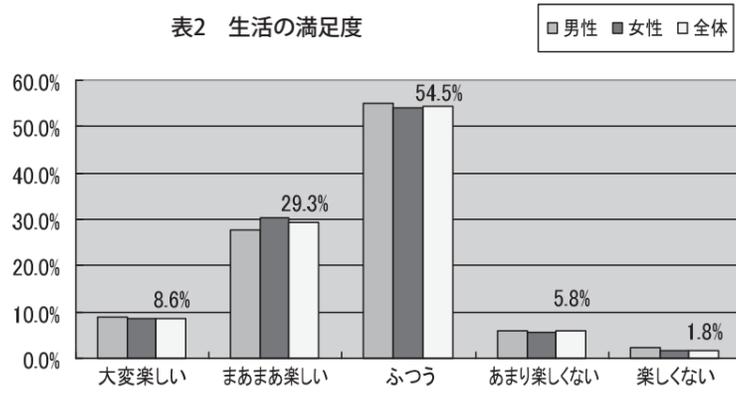
せてくれる大切なものです。毎年の経過を見ることで、自分の生活の良い点、悪い点が見えてきます。ぜひ健康のバロメーターとして毎年健診を受けてください。また、健診結果説明会では、健診結果にもとづき生活改善のための栄養や運動などの具体的内容をお話します。健康づくりの第一歩としてぜひご参加ください。

「健康生活のススメ」の終わりにあたり

今回、九回シリーズのアンケート結果報告とあわせ、「体重のコントロールの大切さ」「朝ごはんの大切さ」「バランスの良い食事のすすめ」「運動のすすめ」「禁煙のすすめ」「歯の健康」「快適な睡眠」「いきいき生活のすすめ」など色々なテーマで情報提供をさせていただきました。

ぜひこれからの生活に役立てていただき、皆さん、体も心も元気で健康な生活をお過ごしください。

表2 生活の満足度



人の動き

副町長に畠中源一氏を再任
十二月五日に開かれた議会定例会の本会議で、副町長に畠中源一氏の再任が同意されました。任期は四年。



■教育委員(任期四年)

- 教育委員長／大西弘二(質美)
- 同職務代理者／奥田健次(実勢)
- 【新任】藤田道子(西河内)
- 【再任】櫻井博規(三ノ宮)
- 【退任】十倉一昭(委員長、安栖里)

■監査委員(任期四年)

- 【新任】小畑圭一(南丹市園部町)
- 篠塚信太郎
- (議会議長選出、実勢)
- 【退任】船越 肇(水戸)
- 小田耕治(本庄)

■公平委員会委員(任期四年)

- 【新任】片山俊明(本庄)
- 【退任】片山確(中)

■固定資産評価審査委員(任期三年)

- 【再任】杉本 貢(市森)
- 【再任】前谷幹夫(下山)

■人権擁護委員(任期三年)

- 【新任】人見 亮豊田
- 湊 敏(須知)

- 【再任】正田恭丈(小畑)
- 田中 強(鎌谷中)

- 十倉さちよ
- (補充員、安栖里)

■選挙管理委員(任期四年)

- 鈴木 修(補充員、保井谷)
- 小倉きくみ(補充員、蒲生)
- 比村住ノ江(補充員、下山)
- 【退任】大西新一(下山)
- 谷垣 忠(上大夫保)
- 安井安郎(安井)

職員の配置

- 【退職(十二月三十一日付)】
- 細見友子
- (国保京丹波町病院看護師)

「町のシンボル」の情報を
お寄せください

本町では、町内でも多く見られ親しみの深い「うぐいす」「イチョウ」「つつじ」をシンボルとして、町のPRなどに活用しています。

皆さまの身の回りで、「○○のイチョウ(つつじ)がきれい」、「○○でよくウグイスを見かける」などの情報がありましたら、下記までお寄せください。

また、皆さまが撮影されたシンボルの写真もお待ちしています。投稿いただきました写真は、町広報紙など、町のPR活動で活用させていただきます。

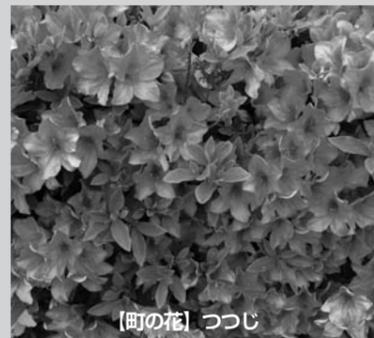
*掲載を約束するものではありません。また、投稿いただきました写真に関する著作権は、京丹波町に帰属するものとします。



【町の鳥】うぐいす



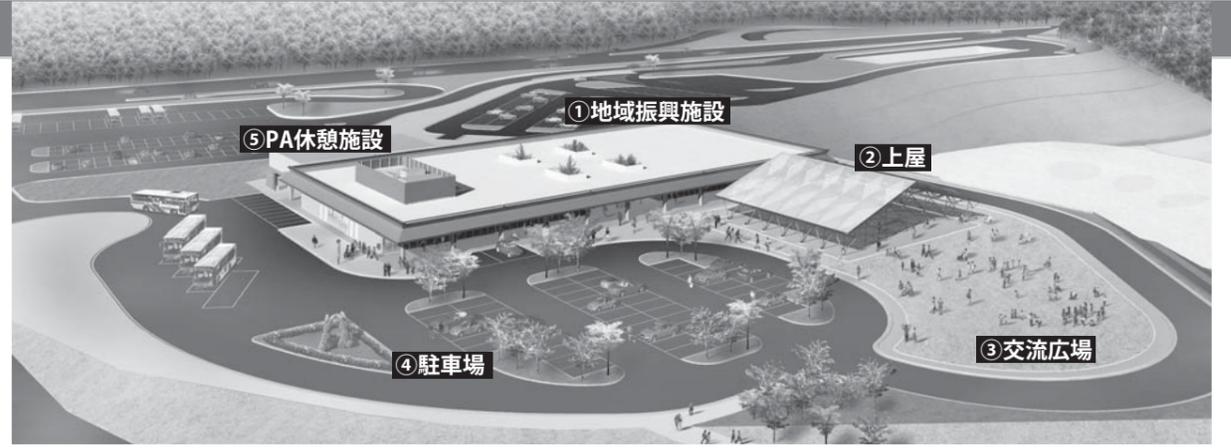
【町の木】イチョウ



【町の花】つつじ

【問い合わせ・投稿先】

企画政策課広報広聴係 電話：82-3801 FAX：82-2500
E-mail kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp



「(仮称)ハイウェイテラス・京たんば」整備事業

「道の駅」の名称を募集します

京丹波町では、丹波PA(仮称)と一体的な地域振興拠点として、「(仮称)ハイウェイテラス・京たんば」整備事業を進めています。この地域振興拠点施設を、京都縦貫自動車道の「道の駅」として、京丹波町を全国にアピールし、未永く皆さまに愛され親しまれる施設とするため、名称を募集します。

【施設概要】

- 京丹波マルシェ(特産物等販売施設)
- 京丹波ステーション(地域情報発信センター)
- レストラン・フードコート・加工施設
- ミーティングルーム(会議室)
- 交流広場(一部上屋付き) など



この施設には、京都縦貫自動車道の京都方面行き、宮津方面行きの駐車場、また、一般道用駐車場の3つの駐車場から利用することができます。

応募方法 所定の応募用紙に、必要事項を記入のうえ、持参、郵送(当日消印有効)または電子メールのいずれかで提出してください。電子メールの場合は、件名に「道の駅名称応募」と明記のうえ、応募用紙に記載されている必要事項を記入し送付してください。

締切 平成26年2月14日(金)(必着)
結果発表 広報京丹波および京丹波町ホームページにて発表します。

その他 応募用紙は、京丹波町ホームページからダウンロードできるほか、土木建築課、各支所窓口で入手いただけます。

【申し込み・問い合わせ先】

土木建築課 開発プロジェクト推進室
電話：82-3806 FAX：82-2700
E-mail: doboku10@town.kyotamba.kyoto.jp



いきいき健康術 第77回

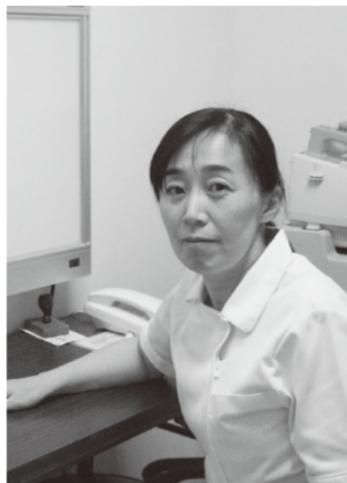
『受動喫煙の防止について』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の平田千春看護師長(第1)。自分のまわりの人の健康を害するかもしれない「受動喫煙」の防止に関するお話です。

皆さんは受動喫煙ってご存じですか。受動喫煙とは、タバコの中から立ち上がる煙、喫煙者から吐き出される煙、空気中に漂う煙はもちろん、喫煙者の衣服や髪、喫煙後の息(呼吸)、喫煙室の壁や、カーテンなどからも発散される有害物質によって、タバコを吸っていない人が暴露されてしまう状態をいいます。

「タバコといえば肺がん」という印象があります。厚生労働省の調査によれば、受動喫煙だけでも人体に及ぼす影響はかなり大きく、肺がんや虚血性心疾患による死亡率は一・三倍以上になるといわれています。また、年齢が低いほど血液中のニコチン濃度は高くなる傾向があり、子どもは成人よりも影響を受けやすい状況にあります。喫煙後に子どもを抱いたり会話をするだけで、子どももタバコの影響を受けてしまうのです。皆さんのお子さんは守られていますか。大丈夫ですか。

昨年、瑞穂小学校の五、六年生の児童が、病院の見学に来てくれました。その時に「中国のPM2.5は大丈夫なのか」と、空気中に広がる有害物質について質問してくれた子がいました。確かに、テレビや新聞でも取り上げられ、どうすればいいのか悩むことはあります。しかし、「実際それよりも怖いのは、近くで吸う大人のタバコの煙よ」と答えると、驚いた表情で「うちのお父さんだめだわ」と落胆していた子どもがいました。お父さん、おじいちゃん、子どもたちが心配していますよ。将来自分たちを背負ってくれる子どもたちの



看護師長(第1) 平田 千春 さん(京丹波町病院)

ためにも、吸う場所環境に注意してくださいね。

「京都府における受動喫煙防止対策に関する報告書」の基本的な考え方に、

- ① 屋内、屋外を問わず、不特定多数の者が利用する公共的な空間は全面喫煙禁止。
- ② 未成年者および妊産婦を受動喫煙から保護する。
- ③ 通りや路地、公園、建物の出入口付近など、特に未成年者が多く往来する路上などについても喫煙禁止。

などが提唱されています。皆さんも、自分やご家族、友人など周りの人たちのために、喫煙と健康について考え、できることなら禁煙されることをお勧めしたいと思います。

京丹波町病院情報

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎ 86-0220

農 林業振興に功績

■農林水産フェスティバル

京都府内で生産される農林産物などを紹介し、生産者と消費者のつながりを深めるイベント「京都府農林水産フェスティバル2014」が十一月三十日と十二月一日、京都府総合見本市会館で開催されました。

十一月三十日に行われた表彰式では、日頃から京都府内の農林水産業の振興に尽力され功労のあつた方の表彰および京都府丹波くりに品評会の表彰が行われました。本町からの受賞者は次のとおりです。(敬称略)

農林水産業功労者表彰

【農林水産業者】

辻 雅(上大久保)
村田美雪(水戸)

【技術改良・伝承・研究者】

軽尾 一雄(東又)
白樫 貢(下乙見)
城崎正継(妙楽寺)

【団体役員】

上仲幹雄(下山)

【団体】

京都府猟友会京丹波町支部
猟友会(金本正明会長)



受賞者の皆さん。前列左から村田さん、細井さん、上仲さん、寺尾町長、白樫さん、城崎正継さん、辻さん。後列は左から鳥淵加奈さん、鳥淵永一さん、金本さん、福井さん、城崎房子さん。(京都府総合見本市会館・京都市)

若手農林漁業者表彰

【農林水産業部門】

鳥淵永一・鳥淵加奈(下山)
福井雅人(豊田)

農山漁村伝承優秀技能認定者

【農の匠】

細井百合子(鎌谷中)

京都府丹波くりに品評会表彰

【京都府知事賞】

山内善継(市場)

【全農京都府本部長賞】

白樫 貢

【京都府菓子組本部長賞】

木材開発丹波農園

【京丹波町長賞】

越川克己(市場)

共 に笑いあえる社会へ

■人権講演会

十二月四日から十日までの人権週間を啓発する人権講演会が、十二月七日に山村開発センターで開催。羽衣国際大学准教授のにしやんたさんが、身の回りに数多くある「違い」を通して、共に笑える社会(つくり)について講演しました。

にしやんたさんは、私たちのまわりには違いしかないと思われ、私達は育ててくれるためにあるのです」と、まわりの人との違いを受け入れ、自分も変わっていくことの重要性を語りました。

また、自らが考える理想の社会づくりに向け「違いを受け入れて変わっていくことは、日本人にとって昔から得意なことだったと思います。心の壁を取り去り、違いを生かして生きてください」と、来場者に語りかけていました。



「違い」について語るにしやんたさん(山村開発センターみずほ・大朴)

地 域を見下ろす橋を見学

■京都縦貫自動車道現場見学会

開通に向け工事が進む井脇地区の京都縦貫自動車道建設現場で、十二月十四日、同地区住民など約九十人が参加して現場見学会が開催されました。

参加者は、現在、同地区で施工にあたる大成建設関西支店の塚本英樹さんから工事の概要などを聞いた後、橋の上を見学しました。地域を一望できる橋に上がった参加者は、建設された橋の高さに驚いていました。

説明会に参加した今西絹代さん(井脇)は「下から見ている感じと違ってすごく高い。こんな高い所から見るとはなかったので、参加できてうれしいです」と、見学のかたわら、自分たちが住む地域を見下ろしていました。



橋の上から見下ろす参加者(井脇)

力を合わせたすきつなぐ

■ 駅伝競走大会

京丹波町駅伝競走大会が十二月八日、森のふれあい広場を発着点とする周回コースで開催。沿道からの声援を受けたランナーが、ゴールを目指してたすきをつなぎました。

今大会には、六部門に二十五チームが参加。小学生から最年長六十歳のランナーは、日ごろから鍛えた健脚を披露しました。

また、森のふれあい広場では、町女性の会のメンバーが豚汁とおにぎりを提供。走り終わったランナーらは、早速冷えた体を温めていました。各部門の一位は次のとおりです。(敬称略)



声援を受け走るランナー(和田)

■ 小学生男子の部

松山ガンバースA

■ 小学生女子の部

Friendship

■ 中学生男子の部

瑞穂中ホッケー

■ 中学生女子の部

瑞穂中女子

■ 一般の部(一般男女混合)

スポーツ推進委員

■ 一般の部(一般男子の部)

須知高校野球部マルボーズ

地域の課題などを共有

■ 区長会全体研修会

町区長会の全体研修会が十二月八日、丹波ひかり小で開催。町内八十五区の区長が集まり、区内の課題や今後の区を通じた地域づくりなどについて話し合いました。

研修会は、日々地域の諸課題に対応されている区長の皆さんが、課題を共有し合い、先進事例などを学ぶ場として四年前から開催されています。「地域を語り合うグループワーク」と題した課題共有の場では、「高齢化」による区役員の「人材不足」「認可地縁団体の設立」など、現在多くの区が直面している課題などが出され、参加者は活発な情報交換を行っていました。

また、同研修会では、広野大蔵活性化委員会の片山博憲委員長が、地域活性化に取り組む先進事例として「命の里事業」について発表。参加者は、地域を上げた取り組み事例に聞き入っていました。



意見交換する区長の皆さん(丹波ひかり小地域交流センター・曾根)

新そばでにぎわう

■ 瑞穂新そばまつり

新そばを楽しむイベント「瑞穂新そばまつり」が十二月八日、瑞穂そば体験道場(旧梅田保育所)で開催。町内外から訪れた人たちが、地元でとれたそばを堪能しました。会場では、新そばを使ったざるそばをはじめ、そばだんごぜんざいや新そばパスタなど、豊富なメニューが販売され、来場者からは、とれたての味を楽しんでいました。

また、会場内では、そば打ち体験も行われ、参加者は、主催した瑞穂そば振興会のメンバーらの指導を受けながら、なれない手つき

でそば打ちに挑戦していました。そばまつりに初めて来場したという山内よう子さん(栗野)は「すごくおいしいです。今までなかなか来られなかったけど、また来年も来たいです」と、一緒に来た人たちと新そばを味わっていました。



新そばの味を楽しむ来場者(瑞穂そば体験道場・鎌谷)

連携による救助を称える

■ ロードレースでの人命救助にかける感謝状贈呈

二〇一三京都丹波ロードレースで人命救助にあたった功績を評価し、同大会の実行委員長を務めた寺尾豊爾町長と園部消防署の中川能季署長が、十二月十八日、役場町長室で川崎朋子さん(京都市)に感謝状を贈呈しました。

今回の贈呈は、同大会に参加していた川崎さんが、同じく参加し

ていた大末剛史さん(神戸市)と協力し、レース中に心肺停止で倒れた男性を、胸骨圧迫により救命処置。その後到着した自動体外式除細動器(AED)での蘇生に導いたことを評価したものです。

感謝状を受けた川崎さんは、「一人で助けることは難しく、関わった全ての人が連携して対応できたことが今回の結果につながったと思います。後日(助かった方と)電話で話しましたが、元気になら



感謝状を贈られた川崎さん(写真中央)(役場町長室・蒲生)

れて本当によかったです」と、自らの対応で助かった方の回復を

地域医療を守り受賞

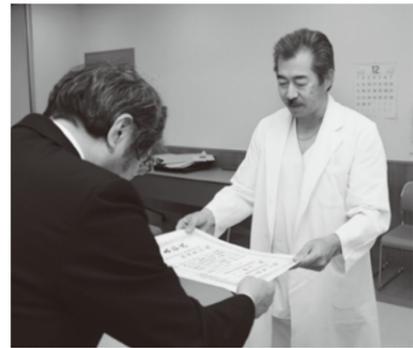
■ へき地医療貢献者表彰

国保京丹波町病院の垣田秀治副院長がこのほど、へき地医療貢献者表彰を受賞。十二月三日、国保京丹波町病院で寺尾豊爾町長から表彰状と記念品の伝達を受けました。

垣田副院長は、平成元年四月から旧瑞穂町国民健康保険瑞穂病院(現国保京丹波町病院)に勤務。内科医として二十五年間にわたり、医療のみならず保健・福祉に貢献されてきました。

伝達を受け垣田副院長は「今回の受賞は、私が病院を代表していただいたようなもの。皆さんに感謝したいです。これからも医師として京丹波町でがんばっていきたいです」と受賞の喜びを話していました。

へき地医療貢献者表彰は、全国自治体病院開設者協議会長および公益社団法人全国自治体病院協議会長から授与されるもので、山村や離島などにおいて、地域医療の確保に長年尽力した医師に送られるものです。本町では、平成



表彰状の伝達を受ける垣田副院長(国保京丹波町病院・和田)

二十三年度の佐藤秀一郎国保京丹波町病院長(当時)に続く二人目の受賞です。

わたしたちの町

人口	15,939(-29)
男	7,518(-17)
女	8,421(-12)
世帯数	6,469(-2)
1月1日現在 / ()は前月比	

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	9,088,682円
復興支援募金	5,858,505円

*平成25年12月31日現在

平成二十五年九月京都市台風十八号災害義援金ご協力ありがとうございました

平成二十五年十一月二十八日まで受け付けていました義援金については、皆様の善意により、本町が開設した募金箱において総額四六、六八三円のご協力をいただきました。この義援金については、日本赤十字社京都府支部を通じ、被災者支援に活用されます。

喜んでいました。なお、今回、都合により出席できなかった大末さんには、十二月二十四日に実行委員会により感謝状が贈呈されました。

新年を飾るしめ縄をつくる

■京都祇園八坂神社本殿のしめ縄づくり

京都祇園八坂神社の分社がある尾長野地区の住民が、十二月十五日、同神社へ奉納するしめ縄づくりに取り組みました。

早朝から集まった区民らは、毎年五月に同地区で実施される御田祭で収穫されたわらを使い、直径が約七十センチにもなる大きなしめ縄三本などをつくりました。

今回のしめ縄づくりに、京丹

後市大宮町周積地区の住民十一人が、尾長野地区で作られるしめ縄づくりを学ぶために参加。協力してしめ縄づくりを上げました。

しめ縄づくりに参加した藤田昭さん(下山)は「高齢化が進み、毎年大変な作業ですが、今年は大宮町からの応援もあつて早くできました。来年も今年以上に良い年になるように願って作りました」と、今回作られたしめ縄で迎える新年が良い年になることを願っていました。



協力して編みこむ住民(下山)

とを願っていました。

光の芸術に見入る

■冬ほたる

琴滝公園一帯を約七十万個のLED電球で飾るイルミネーションイベント「冬ほたる」が十二月十三日から二十四日まで開催。期間中、約一万四、〇〇〇人の来場者が、年末の風物詩となったイベントを楽しみました。

初日に行われた点灯式では、同イベントを運営する冬ほたる実行委員会の安村肇さんが開会宣言を述べた後、琴滝前でカウ

トダウンが行われました。

カウントダウンにあわせて琴滝とその周りのイルミネーションが点灯されると、点灯式に招待された町内の子どもたちなどから歓声があがりました。

また、イベントでは、十月二十七日に行われた京丹波●食の祭典二〇一三の屋台グランプリで入賞した作品も販売され、来場者は、京丹波の食材を生かしたメニューを買い求めています。



幻想的なイルミネーションに見入る子どもたち(琴滝公園・市森)

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチョウ



【町の花】
つつじ



編集後記

あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になりありがとうございました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今回は、今年「年男」「年女」の皆さんに抱負を聞かせていただきました。12歳から96歳まで、その思いはそれぞれですが、皆さん今年1年が良い年であってほしいと願う思いは同じなのではないかと思ひます。

今年1年が、町民の皆さまにとりまして、幸せて充実した1年となりますようお祈り申し上げます。(T)